

令和7年6月6日

水稻生育情報 (No.1)

茨城県 県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【気象と生育の概況】

本年の4～5月の気象は、日平均気温が平年より高く(平年+1.2) まとまった降雨により降水量は平年より多く(平年比130%)、日照時間は平年よりやや少なくなりました(平年比93%)(5月30日現在)

5月30日現在の水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」の生育状況は、草丈は平年並～高く、茎数は平年並み、葉色は平年並～やや淡い状況です。

表1 水稻定点調査結果(5月30日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植日 〔月日〕	植付株数 〔株/坪〕	草丈 〔cm〕	茎数 〔本/m ² 〕	葉色 〔葉色板〕	〔SPAD値〕
筑西市	5月7日	50	33	142	3.8	33.0
一本松	(5月5日)	(55)	(29)	(138)	(3.7)	(34.5)
桜川市	5月9日	51	27	69	3.3	29.9
真壁町飯塚	(5月6日)	(51)	(27)	(98)	(3.9)	(34.3)
下妻市	5月3日	46	31	183	4.2	37.5
加養	(5月1日)	(47)	(31)	(167)	(4.7)	(39.8)

()内は令和2年～令和6年の5カ年平均値

【今後の栽培管理のポイント】

5月20日に気象庁が発表した「向こう3か月の天候の見通し関東甲信地方(6月～8月)」によると、本年6月～8月の気温は高くなると予想されるため、高温による過剰分けつ、籾数過多、品質低下(千粒重低下や乳白粒増加)等の低減に向けて栽培管理に注意してください。

熱中症の危険性も高まりますので、高温下での長時間作業を避け、こまめな水分と塩分の補給や休憩を取ることに加え、単独での作業を避ける、家族や従業員等が定期的に巡回を行うなどの対策等に十分留意してください。

<中干しについて>

- ・水稻栽培における中干しは、“無効な茎を減らせる”、“倒伏を軽減できる”、“田面を固めることで収穫機械作業が順調にできる”などの効果を期待できます。
- ・今後気温が高くなることが予想されます。高温は過剰分けつにつながり、籾数過多となることもあります。中干しの徹底等に努めましょう。
- ・本年の生育は「おおむね平年並み」ですが、茎数は急激に増えるので、中干しの適期を逃さないように、水田をよく観察しましょう(表2及び図1)。

中干し期間中は葉色が低下しますが、追肥は控え、穂肥(7月)まで待ちましょう。

表2 中干しの時期と方法(コシヒカリ)

開始時期	茎数330本/m ² 程度となったとき(坪60株で18本/株、坪50株で22本/株)、田植35日後が目安
実施期間	葉色が濃い場合(葉色値で4.5以上)15～20日間 葉色が薄い場合(葉色値で4.5未満)10～12日
終了時期	葉色が4.0程度に落ちた時期 幼穂形成期(幼穂長1～2mm、出穂の25日前頃)までには終了
中干し程度	田面に亀裂が生じ、軽く足跡がつく程度 水持ちの良い水田では強め、水はけの良い水田では弱めに実施



図1:中干し開始適期のコシヒカリ(茎数20本/株程度)

<イネ縞葉枯病について>

- ・感染すると葉が縞状に黄色くなり、分げつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死し(図2)、枯死しなかった茎でも穂が出ずくんで奇形となり不稔となるため減収します。
- ・ヒメトビウンカ(以下、ウンカ)が媒介するウイルス病で、発病した後の治療法がないため、ウンカを対象とした防除が重要です。イネ縞葉枯病対策のため、適期に防除を行いましょう。
- ・防除適期はアメダス地点(下館・下妻)で6月11日~6月18日と予測されています(茨城県病害虫防除部、病害虫発生予報6月号(5月30日現在)より)



図2：イネ縞葉枯病の症状

参考(気象データ：アメダス下館地点。平年値は1991~2020年の値。)

